

## IV 就業の状況

### 1 就業の変化

第1回調査時に正規の仕事をしている者のうち、男性82.9%、女性62.3%が第7回調査時も正規の仕事をしている。

第1回が「仕事あり」の者について、就業形態の正規・非正規別でみると、第1回と第7回が「正規」の者の割合は、男は82.9%、女は62.3%となっている。(表10)

第1回に非正規だった者の第7回就業形態をみると、第7回に「正規」となっているのは、男41.0%、女15.7%となっており、男女とも年齢が低いほど正規になっている割合が高くなっている(図7)。

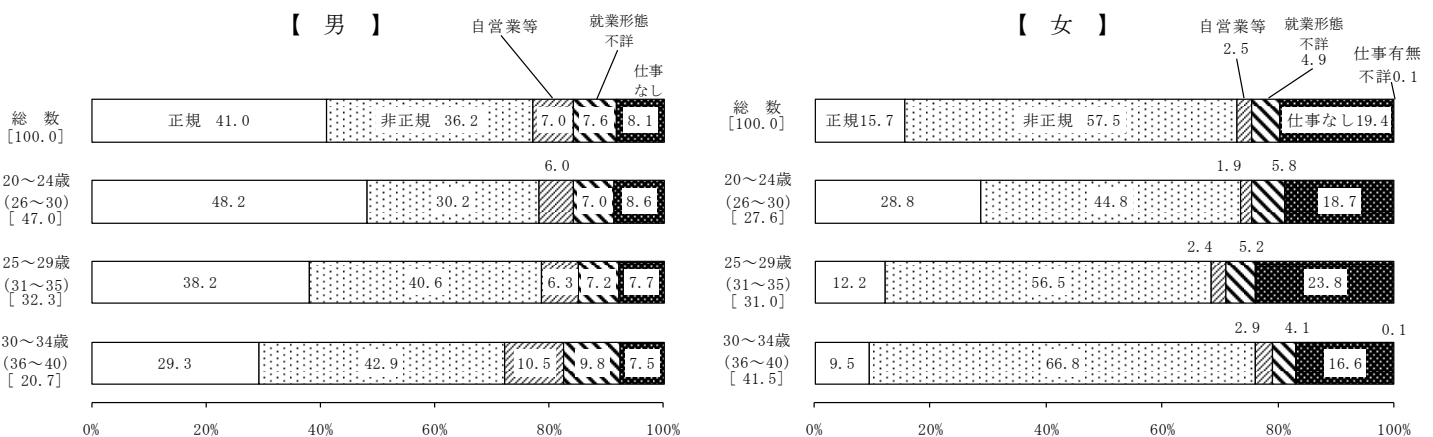
表10 性、第1回調査時の仕事の有無別にみた第7回調査時の仕事の有無

(単位：%)

		第7回調査時の仕事の有無、(再掲)正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規		
第1回調査時 正規・非正規 の仕事の有無、 (再掲)	男	(100.0)	100.0	94.1	64.8	9.9	5.8
	仕事あり	(88.0)	100.0	97.0	68.4	8.7	2.9
	(再掲) 正規	(60.2)	100.0	98.0	82.9	4.4	2.0
	(再掲) 非正規	(10.7)	100.0	91.9	41.0	36.2	8.1
	仕事なし	(9.2)	100.0	71.7	37.4	20.5	28.1
	女	(100.0)	100.0	72.6	29.8	32.9	27.3
	仕事あり	(67.2)	100.0	82.4	39.9	31.9	17.5
	(再掲) 正規	(33.7)	100.0	82.3	62.3	14.5	17.6
(再掲) 非正規	(25.4)	100.0	80.6	15.7	57.5	19.4	
仕事なし	(31.3)	100.0	51.8	8.3	35.4	48.1	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。  
2) 男、女には、仕事の有無不詳を含む。

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第7回調査時の就業形態の変化



注：1) 集計対象は、第1回調査から第7回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。  
2) 年齢は、第1回調査時の年齢である。( )内は第7回調査時の年齢である。  
3) 「自営業等」は、会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事(内職)を合算したものである。

## 2 結婚の状況別にみた就業状況の変化

女性は 49.4%が結婚後も同一就業を継続し、28.1%が離職をしている。男性は 78.8%が結婚後も同一就業を継続している。

第 1 回の独身者について、この 6 年間の結婚の状況別に、「結婚した」は結婚前後の調査時の、「結婚していない」はこの 1 年間の就業状況の変化をみた。

結婚した場合の「同一就業継続」は、男 78.8%、女 49.4%、「離職」は、男 1.2%、女 28.1%、結婚していない場合の「同一就業継続」は、男 72.9%、女 71.9%、「離職」は、男 2.9%、女 3.2%となっている。(表 1 1、図 8)

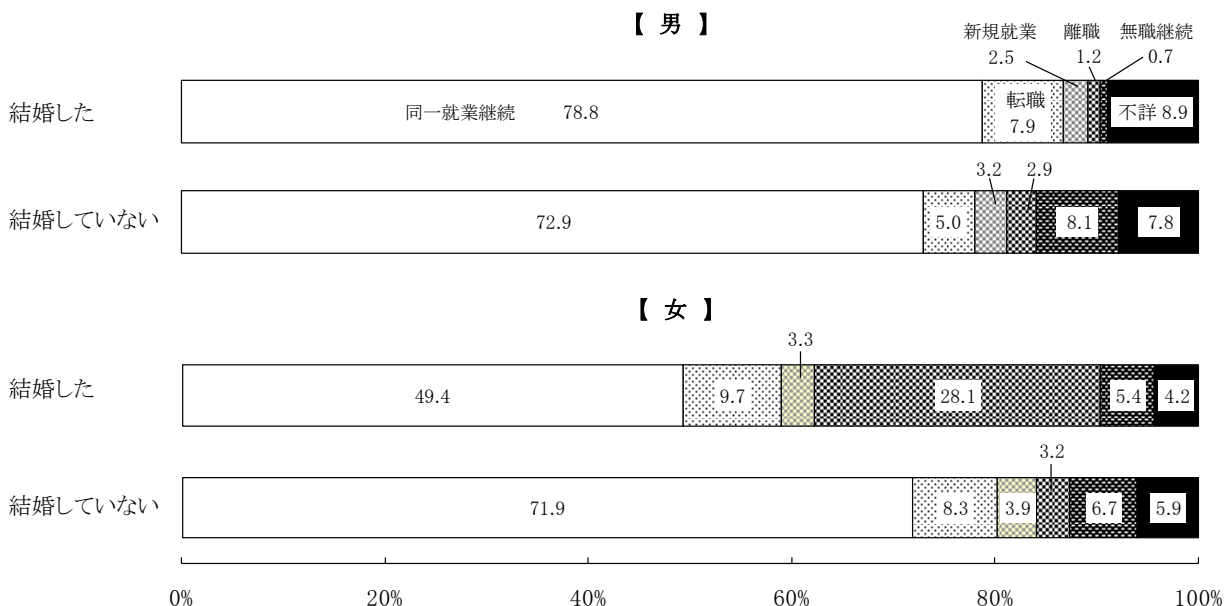
表 1 1 性、この 6 年間の結婚の状況、年齢階級別にみた就業状況の変化

(単位：%)

		総数	同一就業 継続	再掲		転職	再掲		新規 就業	離職	無職 継続	不詳	
				(再掲) 正規	(再掲) 非正規		(再掲) 正規から 非正規	(再掲) 非正規 から正規					
男	結婚した	(100.0)	100.0	78.8	65.6	4.4	7.9	0.7	1.7	2.5	1.2	0.7	8.9
	21～25歳	(12.6)	100.0	63.1	53.1	3.1	10.8	0.8	0.8	7.7	3.1	1.5	13.8
	26～30歳	(47.6)	100.0	76.2	64.6	5.3	9.1	0.8	2.2	2.4	0.8	0.6	10.8
	31～35歳	(30.9)	100.0	85.9	71.5	3.8	6.0	0.6	1.6	1.3	0.9	0.6	5.3
	36～40歳	(9.0)	100.0	90.3	67.7	4.3	4.3	-	1.1	-	1.1	-	4.3
	結婚していない	(100.0)	100.0	72.9	52.9	12.5	5.0	0.7	0.9	3.2	2.9	8.1	7.8
	26～30歳	(39.5)	100.0	70.5	50.6	14.2	6.0	0.9	1.5	4.0	3.7	7.9	7.9
	31～35歳	(33.9)	100.0	74.7	54.5	12.8	4.9	0.8	0.7	2.6	2.2	7.7	8.0
36～40歳	(26.6)	100.0	74.1	54.3	9.5	3.8	0.5	0.3	2.7	2.8	9.0	7.6	
女	結婚した	(100.0)	100.0	49.4	35.8	11.7	9.7	3.4	0.8	3.3	28.1	5.4	4.2
	21～25歳	(15.1)	100.0	40.1	32.3	7.8	9.4	3.1	0.5	2.6	37.0	8.3	2.6
	26～30歳	(52.7)	100.0	49.6	38.5	9.4	10.1	3.7	0.7	3.7	27.6	4.9	4.0
	31～35歳	(26.6)	100.0	52.7	32.2	17.2	9.8	3.3	1.2	3.3	24.3	5.3	4.7
	36～40歳	(5.7)	100.0	56.9	37.5	18.1	5.6	1.4	-	1.4	26.4	2.8	6.9
	結婚していない	(100.0)	100.0	71.9	45.1	23.8	8.3	1.4	0.9	3.9	3.2	6.7	5.9
	26～30歳	(46.8)	100.0	69.7	44.7	23.1	9.5	1.9	0.9	5.3	4.0	5.3	6.1
	31～35歳	(30.5)	100.0	74.5	45.1	25.6	7.5	0.9	1.2	2.2	2.5	7.8	5.5
36～40歳	(22.7)	100.0	73.0	45.8	22.8	7.0	1.0	0.7	3.5	2.3	8.0	6.2	

注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。  
2) 年齢は、「結婚した」は結婚後調査時の、「結婚していない」は第 7 回調査時の年齢である。  
3) 就業状況の変化は、「結婚した」は結婚前後調査時の、「結婚していない」は第 6 回調査から第 7 回調査にかけての就業状況の変化である。  
4) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図 8 この 6 年間の結婚の状況別にみた就業状況の変化



注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られている者である。ただし、「結婚した」には、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。  
2) 就業状況の変化は、「結婚した」は結婚前後調査時の、「結婚していない」は第 6 回調査から第 7 回調査にかけての就業状況の変化である。  
3) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

### 3 仕事をしていた女性の結婚後の就業継続の有無

女性は、仕事が正規の場合 62.3%、非正規の場合 42.5%が結婚後も同一就業を継続している。

第 1 回の独身者について、この 6 年間に結婚し、結婚前に仕事をしていた女性について結婚後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」は 54.2%、「転職」は 10.6%、「離職」は 30.8%となっている。

また、就業形態別にみると、「正規」では 62.3%が「同一就業継続」となっている。「非正規」では「同一就業継続」が 42.5%、「離職」が 41.4%となっているが、21～25 歳では、半数以上が離職している。(表 1 2、図 9)

表 1 2 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

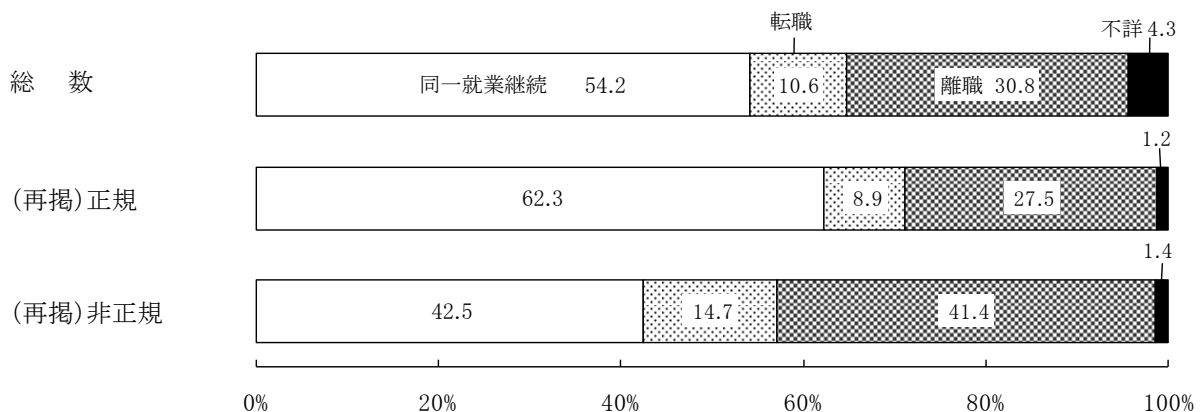
		(単位：%)							
		総数	同一就業継続	転職			離職	不詳	
				総数	(再掲) 正規へ	(再掲) 非正規へ			
結婚(再掲調査時)の結婚前年調査階級の正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	54.2	10.6	2.3	7.4	30.8	4.3
	21～25歳	(14.7)	100.0	45.3	10.6	2.9	7.1	41.8	2.4
	26～30歳	(52.8)	100.0	54.3	11.1	2.1	8.0	30.3	4.3
	31～35歳	(26.7)	100.0	57.6	10.7	2.9	7.4	26.5	5.2
	36～40歳	(5.9)	100.0	60.3	5.9	-	2.9	27.9	5.9
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	62.3	8.9	1.9	5.9	27.5	1.2
	21～25歳	(15.4)	100.0	54.5	9.8	3.6	5.4	35.7	-
	26～30歳	(54.7)	100.0	64.6	9.0	1.5	6.3	25.1	1.3
	31～35歳	(23.5)	100.0	63.2	9.4	2.3	6.4	25.7	1.8
	36～40歳	(6.3)	100.0	58.7	4.3	-	2.2	34.8	2.2
	(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	42.5	14.7	2.8	11.3	41.4	1.4
	21～25歳	(14.7)	100.0	28.8	13.5	1.9	11.5	57.7	-
	26～30歳	(50.4)	100.0	36.0	15.7	2.8	12.4	46.6	1.7
	31～35歳	(30.3)	100.0	54.2	15.0	3.7	11.2	29.0	1.9
	36～40歳	(4.5)	100.0	81.3	6.3	-	-	12.5	-

注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られ、この 6 年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図 9 結婚した女性の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、第 1 回調査時に独身で第 7 回調査まで回答を得られ、この 6 年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2) 「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3) 6 年間で 2 回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

#### 4 出生の状況別にみた仕事をしていた妻の就業継続の有無

##### (1) 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた状況

第1子出産のときに52.9%の妻が離職しており、就業形態で見ると、正規36.4%、非正規75.0%となっている。夫婦のうち、「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第6回調査時に仕事をしていた妻について、この6年間の出生の状況別に、出産後の就業継続の有無をみた。

出産後において「同一就業継続」であった割合は、「出生あり」では51.2%となっていて、出生順位別にみると、「第1子」では41.2%、「第2子」では60.3%、「第3子以降」では50.3%となっている。

また、第1子出産の妻をみると、「同一就業継続」41.2%、「離職」52.9%となっており、そのうち正規では「同一就業継続」59.6%、「離職」36.4%、非正規では「同一就業継続」18.2%、「離職」75.0%となっている。(表13、図10)

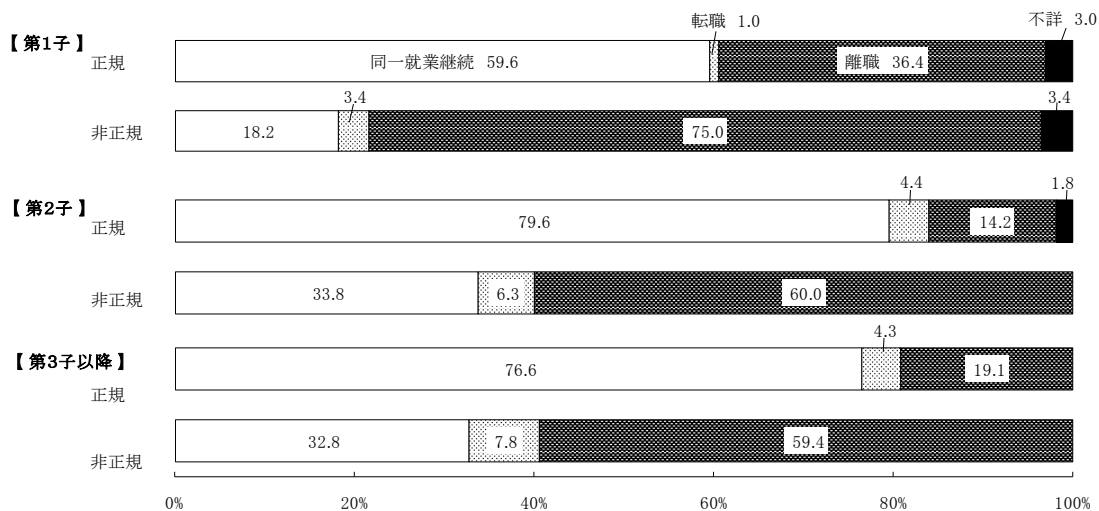
表13 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた妻の就業継続の有無

(単位：%)

		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出生の有無、 出生順位、 正規・非正規	出生あり	(100.0)	100.0	51.2	4.6	40.6	3.6
	(再掲) 正規	(44.0)	100.0	71.4	3.1	23.6	1.9
	(再掲) 非正規	(39.5)	100.0	27.6	5.6	65.5	1.3
	第1子	(34.7)	100.0	41.2	2.0	52.9	3.9
	(再掲) 正規	(16.8)	100.0	59.6	1.0	36.4	3.0
	(再掲) 非正規	(15.0)	100.0	18.2	3.4	75.0	3.4
	第2子	(40.6)	100.0	60.3	5.4	30.5	3.8
	(再掲) 正規	(19.2)	100.0	79.6	4.4	14.2	1.8
	(再掲) 非正規	(13.6)	100.0	33.8	6.3	60.0	-
	第3子以降	(24.7)	100.0	50.3	6.9	40.0	2.8
	(再掲) 正規	(8.0)	100.0	76.6	4.3	19.1	-
	(再掲) 非正規	(10.9)	100.0	32.8	7.8	59.4	-
	出生なし	(100.0)	100.0	75.3	10.4	7.9	6.4
	(再掲) 正規	(25.4)	100.0	88.5	3.9	5.2	2.4
(再掲) 非正規	(59.0)	100.0	76.3	13.7	8.0	2.0	

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第6回調査時に妻が仕事ありであった夫婦  
 2) 「正規」「非正規」は、「出生あり」は出産前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。  
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図10 出生順位、就業形態別にみた出生のあった妻の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に、妻が仕事ありであった夫婦  
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。  
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

(2) 妻の職場における育児休業制度の有無別にみた状況

仕事が正規で育児休業制度を利用しやすい雰囲気がある場合 85.8%が出産後も同一就業を継続している。夫婦のうち、出産前に妻が会社等に勤めていて、この5年間に子どもが生まれた夫婦について、育児休業制度の有無別に、出産後における妻の就業継続の有無をみた。

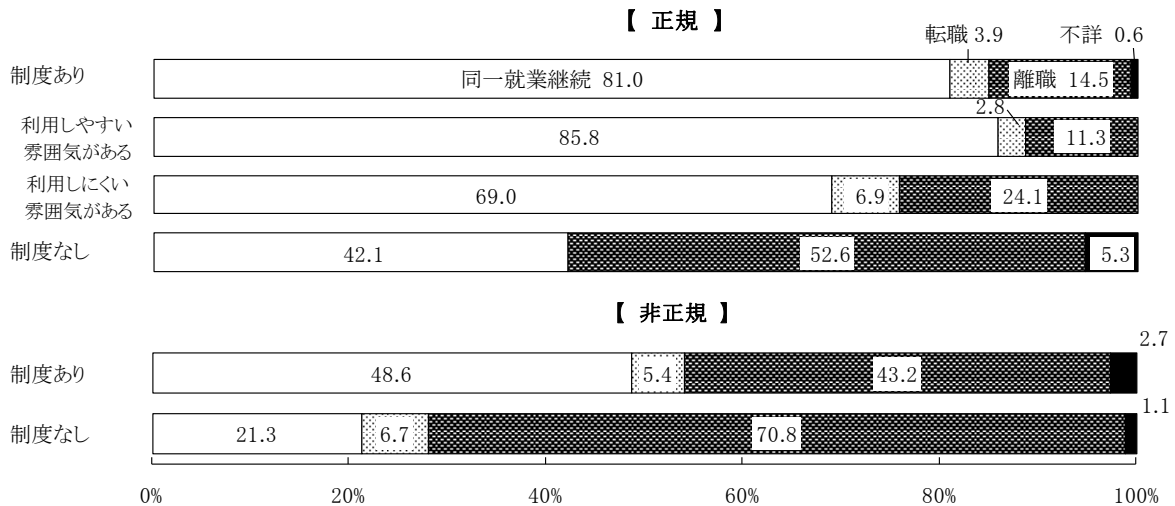
「同一就業継続」の割合を就業形態別にみると、「正規」で「制度あり」では81.0%、「非正規」で「制度あり」では48.6%となっている。また、「正規」で「制度あり」のうち「利用しやすい雰囲気がある」では85.8%、「利用しにくい雰囲気がある」では69.0%となっている。(表14、図11)

表14 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

		(単位：%)					
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出産前調査時の妻の有無、(再掲)就業形態で利用可能な非正規	総数	(100.0)	100.0	52.1	4.6	42.1	1.2
	制度あり	(52.8)	100.0	75.5	4.2	19.4	0.9
	利用しやすい雰囲気がある	(30.6)	100.0	81.6	3.2	15.2	-
	利用しにくい雰囲気がある	(8.8)	100.0	63.9	8.3	27.8	-
	どちらともいえない	(11.5)	100.0	68.1	2.1	25.5	4.3
	制度なし	(26.4)	100.0	25.0	5.6	67.6	1.9
	制度があるかないかわからない	(17.6)	100.0	27.8	2.8	68.1	1.4
	(再掲) 正規	(100.0)	100.0	73.5	3.7	21.4	1.4
	制度あり	(83.3)	100.0	81.0	3.9	14.5	0.6
	利用しやすい雰囲気がある	(49.3)	100.0	85.8	2.8	11.3	-
	利用しにくい雰囲気がある	(13.5)	100.0	69.0	6.9	24.1	-
	どちらともいえない	(18.1)	100.0	76.9	2.6	17.9	2.6
	制度なし	(8.8)	100.0	42.1	-	52.6	5.3
	制度があるかないかわからない	(7.0)	100.0	33.3	-	60.0	6.7
	(再掲) 非正規	(100.0)	100.0	28.4	5.7	64.9	1.0
制度あり	(19.1)	100.0	48.6	5.4	43.2	2.7	
利用しやすい雰囲気がある	(9.8)	100.0	57.9	5.3	36.8	-	
利用しにくい雰囲気がある	(3.6)	100.0	42.9	14.3	42.9	-	
どちらともいえない	(4.1)	100.0	25.0	-	62.5	12.5	
制度なし	(45.9)	100.0	21.3	6.7	70.8	1.1	
制度があるかないかわからない	(29.4)	100.0	26.3	3.5	70.2	-	

注：1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの5年間に子どもが生まれた夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦  
 2)「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。  
 3)総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。

図11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無



注：1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの5年間に子どもが生まれた夫婦である。  
 ①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦  
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦  
 2)「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。

## 5 この5年間の平均所得の状況

年齢が高くなると男は所得金額階級が分散する傾向があるが、女は「100万円未満」の割合が最も高い。

第3回から第7回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、26歳では男女とも「100～200万円未満」が最も高く、31歳では男は「200～300万円未満」が34.9%、女は「100～200万円未満」が30.6%、36歳では男は「200～300万円未満」と「300～400万円未満」がそれぞれ23.0%、女は「100万円未満」が40.2%と高くなっている。(表15、図12)

表15 性、年齢別にみた第3～7回の平均所得金額階級

		(単位：%)							
		総数	所得なし	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500万円以上
男	26歳	100.0	1.3	21.3	38.0	28.5	9.5	1.3	-
	31歳	100.0	0.9	12.6	20.9	34.9	21.7	6.9	2.3
	36歳	100.0	0.2	5.9	11.9	23.0	23.0	20.2	15.8
女	26歳	100.0	1.7	19.8	43.3	29.8	4.9	0.3	0.3
	31歳	100.0	1.7	30.4	30.6	22.6	10.9	3.1	0.8
	36歳	100.0	10.3	40.2	19.7	16.1	8.3	3.7	1.7

注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、所得金額不詳の者を除く。

①第1調査から第7回調査まで回答を得られている男性票、または女性票対象者

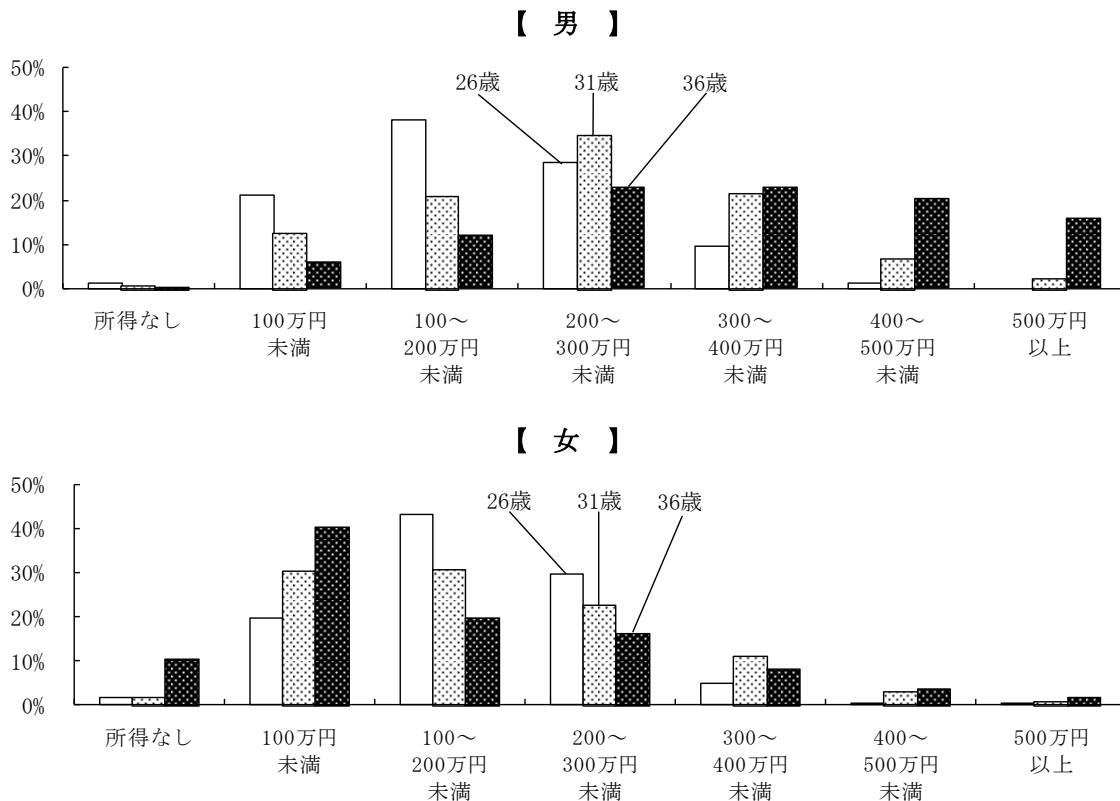
②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第7回調査時26歳)、25歳(第3回調査時27歳、第7回調査時31歳)、30歳(第3回調査時32歳、第7回調査時36歳)の者

2)年齢は第7回調査時の年齢である。

3)「所得なし」は、第3～7回調査時まで連続して所得のなかった者である。

4)金額階級は、第3～7回調査時までの平均所得金額階級である。

図12 性、年齢別にみた第3～7回の平均所得金額階級



注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、所得金額不詳の者を除く。

①第1調査から第7回調査まで回答を得られている男性票、または女性票対象者

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第7回調査時26歳)、25歳(第3回調査時27歳、第7回調査時31歳)、30歳(第3回調査時32歳、第7回調査時36歳)の者

2)年齢は第7回調査時の年齢である。

3)「所得なし」は、第3～7回調査時まで連続して所得のなかった者である。

4)金額階級は、第3～7回調査時までの平均所得金額階級である。